

# バスと自転車の共存プロジェクト

～相手の立場を体感できる死角体験プログラムのご紹介～

プロジェクト代表 高島 亮太 副代表 稲見 正博

## ①背景と目的

スポーツ自転車の普及 自転車通勤者の増加 走行空間整備の進展など ⇒ **自転車の車道走行が急速に拡大**



道路の安全な共有 相互コミュニケーションの大切さを認識してもらう

## ②実施内容

本物のバス車両と自転車を配置 コミュニケータはバス運転経験者

### 1 多くの乗客を運ぶ 路線バス運転士の視点

運転席から目視とミラ で安全確認しその限界 死角を把握 自転車がどう見えるかを体感 多くの人を運ぶバス特有の交通事故「車内人身事故」を認識する

### 2 バス側方を走行する 自転車の視点

バスからの視点を踏まえ どう追い抜く（追い抜かない）べきかなど 相手の立場に配慮した安全走行を考える



直近1年の実績

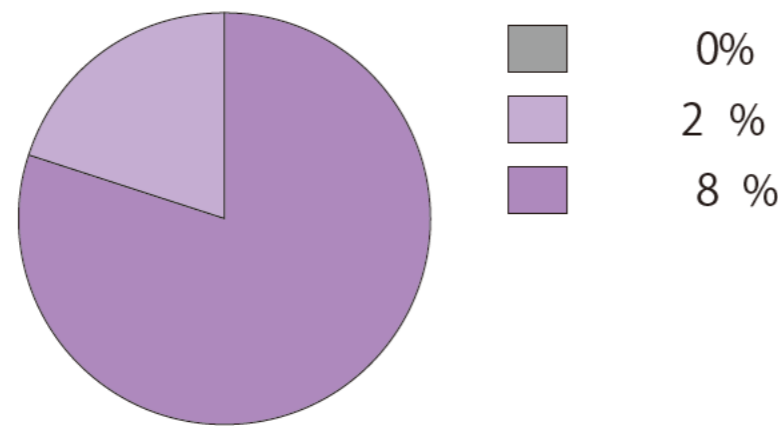
	イベント	協力
2016.2	ポツイクデイ埼玉	グドチ イインタ ナショナル ズム宣 プロジ クト
2016.2	京ワンダレス	Cク エイト 京王 鉄バス 京バ 東
2017.3	ノバスミルフェス	ノ島電鉄 ス横浜 ノ電バス藤沢 江ノ電
2017.6	浜港祭クルック	浜開港祭サ 会 横浜市 クルピクニ 実行委 通局
2017.0	ル・ド・陸	グドチ R 日本 ズム宣 プロジ クト

※トクで実施

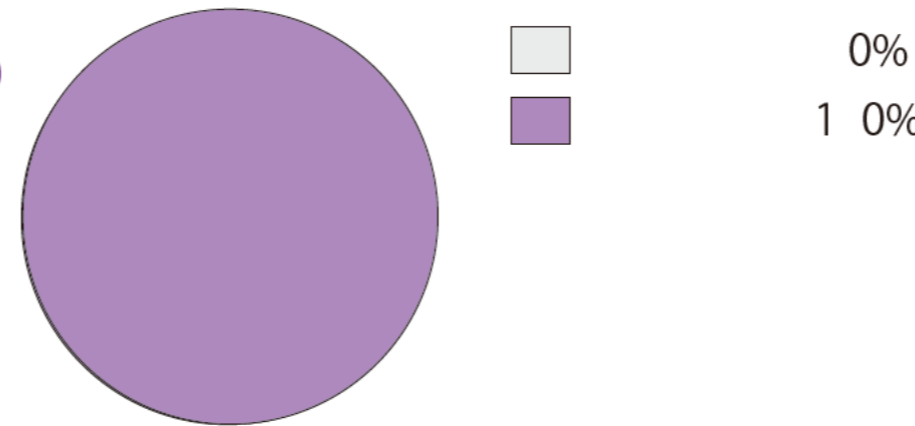
## ③体験者の声と成果

「バスの死角が考えていたよりも多かった」「今後車道を走る時やバスに乗る時気をつけたいと思った」など認識を新たにされた感想が多かった

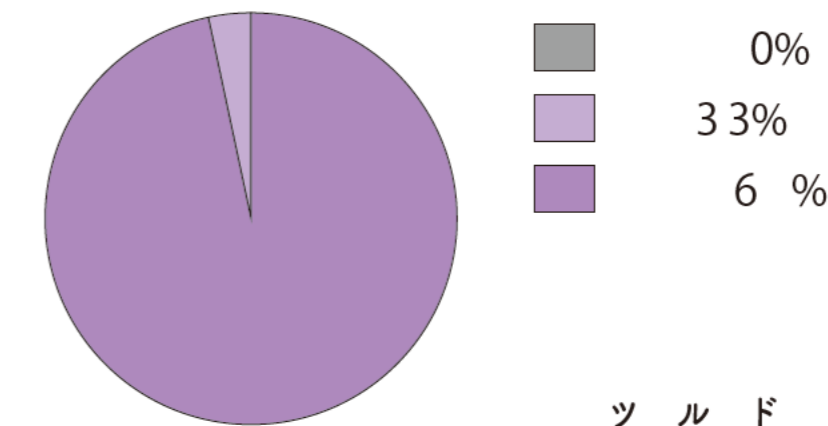
車内外に常に注意確認しながら運転をする  
「バス運転士の認識が変わった」  
100%



急ブレーキなどでバス乗客が負傷する  
「車内人身事故が交通事故と知り 認識を新たにされた」  
100%



道路においてバスと自転車の  
「共存が重要と感じた」  
100%



ツルド 21 体験者 ンケ より

自転車イベント 地域イベント バスイベントなどで スポーツバイク乗り ママチャリなど **様々な自転車利用者** に対して自転車ルル 安全走行意識の向上を図れるものとなっている

## ④今後の展望

本プログラムで協働したバス事業者からは「自転車との事故防止に前向きに取り組む“地域のバス”としてPRできた」と好評

→ 今後の展開として「バス運転士の事故防止プログラム」を準備中



バスと自転車の 共存プロジェクト

お問い合わせ r akas ima@gen ne work com (株式会社玄 高島)